



桜の花も、新緑に変わり、モクレンの白や朱色、ハナミズキの白、紅色、さらにこの時期はツツジ特有の「躑躅色（つつじ色）」。

似た色はあっても、どれとして同じ色ではないですね。私たちの心も豊かになります。

また、五月は「皐月（さつき）」とも記します。「皐」には「水ぎわ」の意味がありますが、漢字としては「白」と、元の字「夨（とう）（すすむの意味）」とから成り、白光が放出する様子から「しろい」の意味もあります。

新年度が始まって1ヶ月、新たに輝ける月でもあります。みなさんは新しい学年、新しいクラスでの生活にまだまだ不安や緊張があるかもしれませんが、私たちの気持ちも新たに、輝いた日々を過ごしましょう！

きっと新たな出会いがあり、新たな目標が見えてくることでしょう。

今月の礼拝

単元18: 十字架と復活②

…お話 …奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中高生) 9:00～9:30	プレイ・タイム (小学生／中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
5月4日	復活の主とペトロ	ヨハネによる福音書 21章	武岡 基 武岡路実	母の日に向けて プレゼント作り	武岡路実 安達いづみ

単元19: 神の国について

5月11日 母の日	「婚宴」のたとえ	マタイによる福音書 22:1-14	武岡 基 安達いづみ	母の日に向けて プレゼント作り	武岡 基 安達いづみ
5月18日	「十人のおとめ」のたとえ	マタイによる福音書 25:1-13	安達正樹 牧師 安達いづみ		安達正樹 牧師 安達いづみ
5月25日	「タラント」のたとえ	マタイによる福音書 25:14-30	武岡路実 安達いづみ		安達いづみ 武岡路実

※聖書箇所やお話の内容・担当者は、変更することがあります。

「母の日」 教会から始まりました

アメリカ・ウェストバージニア州のウェブスターという小さな町のメソジスト教会に、ジャービス夫人という教会学校の教師がいました。ある日曜日、彼女は「十戒」の中から、両親を敬うべきことを教え、最後にこう語りました。「みなさんの中から、お母さんの愛に心から感謝する方法を教えてください。私に望みます。」その後、1905年にジャービス夫人は亡くなり、その2年後の1907年に追悼集会が開かれました。娘のアンナ・ジャービスは、母の言葉を思い出し、この追悼集会にたくさんのカーネーションを飾って、亡き母を偲び、感謝を表しました。これが人々に大きな感動を与え、いつしか、この習慣は人々の間に広まり、1914年、アメリカ議会は5月の第2日曜日を「母の日」として定めました。

みなさんもジャービス夫人の言葉「両親を敬うこと」の大切さを思い、「両親からの愛に感謝する方法」を考えてみましょう。

今月の聖句

(2025年度教会聖句)

信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である。

(コリント I 13:13)

今月のさんびか♪

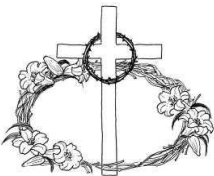
こどもさんびか 20 (かみはそのひとりごを) 讃美歌21…69



聖書には、イエスさまの福音が述べ伝えられた『新約聖書』と、イエスさまがこの世に現れる以前の『旧約聖書』とがあります。どちらも大切な聖書です。「どうして“訳”じゃなくて、“約”なの？」と疑問に思う人がいることでしょう。これは、神さまと私たちとの間で結ばれた「約束・契約」だからです。約束ですからお互いが守るべきことが記されているのです。今年度の教会聖句では『信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。』と、神さまが私たちに対して大切にすべきものを示されています。4月のイースターではイエスさまの十字架について学び、私たちにとっての十字架の意味について考えました。では、私たちは神さまに対して、どのような約束を果たさなければならないのでしょうか。そのヒントの一つがこの賛美歌に示されています。この賛美歌は、『讃美歌21』で「洗礼・バプテスマ」に分類されていますが、洗礼（バプテスマ）によって救われた主観的な喜びや感謝の歌というよりは、むしろ「新しい契約に神さまが招いておられる、祈りつつ洗礼を受けよう」という、神さまの招きの視点が歌われています。

この賛美歌は、1990年に出版されたアジアの新しい賛美歌集「Sound the Bamboo」に掲載された賛美歌で、オーストラリアの賛美歌作家のロビン・マンさん（1949- ）によって作詞作曲されました。彼は3年間、高校で教師をした後、オーストラリア南部の都市アデレードにある聖ステファノ教会のスタッフとして働き、ルター派の神学校で神学と音楽を学んで1971年にキンデクリスト（Kindekrist）というクリスチャン・ロックバンドを組織しました。これは超教派をベースとして、礼拝に現代のポピュラー音楽を採り入れる試みを推進するグループで、すでにアルバムが何枚も出され、YouTubeでも聴くことができます。彼は賛美歌集の編纂にも積極的で、多くの賛美歌集に携わっています。そして、オーストラリア内陸部の田舎の風土や文化を背景とするクリスマス物語“Outback Christmas”の作曲も手がけ、ルター派賛美歌委員会にも貢献しています。

この賛美歌は、答唱用の旋律と、各節を歌う旋律とは軽快ながらも対照的であり、繰り返し歌いやすいよう工夫がなされています。「希望をもって、神さまの呼びかけに応えよう。神さまを信じて進もう。」という明るい曲調の中に、私たちが“今”果たすべき約束が明確に示されています。伴奏もオルガンだけでなく、ピアノやキーボード、あるいは鍵盤ハーモニカなどで弾くことで雰囲気が変わり、それとともに会衆をリードしやすくなります。



おたんじょうびおめでとう🍰

5月生まれのお友だち

「礼拝」ってなあに？

「礼拝」って何だろう？教会に行ったことのない人、通い始めたばかりの人にとっては大きな疑問ではないでしょうか。教会での礼拝は、日本に住む多くの人を持っている「宗教儀礼としての礼拝」のイメージとはかなり違いがあります。では何が違うのでしょうか。まず、教会での礼拝は、私たちが一方的に神さまを崇めて神さまを賛美する場ではありません。神さまを拝めば願いが叶うというものでもありません。礼拝は神さまの働きかけによって私たちが集められるところから始まります。教会へ行くというのは自分の意思ですが、神さまがいつも呼びかけていてくださるのです。これが「前奏」「招詞（招きの言葉）」です。そして、私たちからの感謝の応答が「讃美歌」や「祈り」という形式で行われます。つまり礼拝は、全体が神さまと私たちとの対話によって進められるのです。礼拝の中心になるのが「聖書」の言葉であり、その説き明かしとしての「説教」「お話」です。「説教」「お話」は神さまからの言葉です。語る人を神さまが用いて、その人を通して神さまが語っておられるのです。ですから、語る人が誰でも、語り方がどんなであっても、それが重要なことではなく、神さまからの言葉として聞くことが大切なのです。礼拝での「献金」は神さまからの恵みに対する感謝の応答です。募金とは趣旨が異なります。礼拝の最後には、神さまに押し出されて日常生活へと遣わされて出ていく「祝福（祝福）」「後奏」で終わるのです。